



六華の心

酒田市立第六中学校
学校だより 第2号
校長 齋藤 啓悦
令和2年4月22日

「新任式」「始業式」を開催

臨時休校延長 学校再開は5月11日に

約2週間遅れの新任式・始業式となりました。新型コロナウイルス感染症対策のため、2年生と3年生にわけて2回開催（同じやり方で2回行う）。しかも教室には入らずに、体育館に集合し、式のあとに学年集会を行い、終了後そのまま下校という形です。体育館では座席も指定。椅子の間隔をより広くとって予防に努めました。そして、式が終わるたびに椅子を消毒、そして換気。また、



生徒も教職員も全員がマスク着用でした。

2、3年生の態度はたいへん立派でした。代表生徒の歓迎のあいさつも素晴らしかったです。短い時間でしたが、在校生の姿を見ることができ、ほっとしました。同時に学校再開に向けてしっかり準備しなければという思いを一層強くしました。



【始業式「校長の話」】（抜粋：第1号続き。原稿を見ないで話したので、実際の話とは若干の違いがあります）

中学校3年間はあっという間です。中学生という年代を考えると、いろんな経験をして人として大きく成長する大切な時期です。

今日、皆さんにお話ししたいことは一つ。それは、「いい集団をつくる」ということです。

皆さんはまだ何者でもありません。自分は何ができるか、何をやりたいか、どんな力があるか、まだわからないことばかりです。目標を持つことの大切さは言うまでもありません。

大事なのは、何かをやる前から、「自分にはできない」「どうせ自分は…」と決めつけないことです。

今はできないこと、わからないことがたくさんあって当然です。むしろこれからたくさんのことを学び、経験をして自分を成長させるチャンスがたくさんあるのが中学生の時期です。

そのためには、一人だけががんばる、自分だけがよくなるだけでは不十分です。学び合い、競い合い、助け合う仲間が必要です。つまり、「いい集団」がないと成長の質が違ってくるということです。

六中は生徒会活動が盛んだと思っています。みんなで約束を決め、活動に取り組む。とても大切なことです。その積み重ねが伝統と歴史になります。

ほかの学校が何をやっているかでありません。自分たちが何をやりたいか、自分たちに何ができるか考え、行動に移すことが大切なのです。是非「いい集団」をつくってください。

3年生は、2年生、新入生のモデル、そして「学校の顔」。リーダーシップの発揮を期待しています。

2年生は、1年生のモデル。中学生になるとここが違うんだ、六中はこうなんだということを行動で示してほしい。そして、2年生は、「大きな戦力」、次のリーダーです。

2・3年生には責任と自覚のある行動を期待しています。頑張る皆さんを先生方も保護者や地域の方もみんなで応援していきます。

まだ休みが続きますが、健康に気を付け、次の登校日にみんな揃って元気に会いましょう。

*「入学式」の【式辞】は第3号に掲載します。



◆感染した人が出ても、決して差別や偏見、「いじめ」や「差別」はあってはなりません…。

新型コロナウイルス感染症は命にかかわる病気。皆さん自身はもちろん、皆さんの家族、周りにいるみんなの命を守るためには、みんなで我慢することが必要です。自分が「うつらない」ことも大切、そしてほかの人に「うつさない」ことも大切です。今は誰が感染してもおかしくない状況です。中には医療関係者などリスクを抱えながら働いてくれている人もいます。もし誰かが感染したとしても決してその人を責めることがないようにしなければなりません。決して差別や偏見、「いじめ」があってはなりません。

みんなが我慢し、助け合い、理解し合い、この困難を乗り越えていきましょう。